

日浦地区タウンミーティング（要約）

テーマ：日浦地区のまちづくりについて

令和元年10月31日（木曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は平日の夜で、お仕事や家事など何かと忙しかったのではないかと思いますけれども、このように多くの方にお集まりいただきまして、ありがとうございます。日浦地区のタウンミーティングの開催に当たって、まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様のご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。さて、松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任をさせていただいてから始めています。市役所で待っていたら楽ですけど、果たしてそれでいいのでしょうか。それぞれ地区ごとに課題があり、逆に魅力があります。私たちの方から出向かせていただいて、皆さんの声を聞かせていただこうと、始めさせていただきました。このタウンミーティングは、できるだけ皆さんから頂いた質問にはこの場でお答えをして帰りますが、中には国や県と関係する案件、また財政的によく考えなければならないものなど、いい加減な返事をして帰るわけにはいきませんから、いったん持ち帰らせていただくこともあります。そういったものは1カ月をめぐりに必ず地区にお返事をするというのがこのタウンミーティングの特徴です。松山市は、旧北条市、旧中島町を合わせて41地区に分かれますけれども、市長の任期は1期が4年で、月に直すと48カ月です。1カ月に1回のペースで回らせていただこうと思っていましたが、おかげさまで好評になり、1期の4年で41地区を2巡りさせていただきました。そして、2期目では地区別に加えて、子育て世代の方々に集まっていたり、人生の先輩方、シルバー世代の方々に集まっていたりする世代別タウンミーティングや、商店街の方々に集まっていたり、農業分野の方々に集まっていたりする職業別タウンミーティングを重ねています。今、3期目に入らせていただいて、今日のタウンミーティングで通算116回目になります。90分間という時間になりますけれども、あまり緊張なさらずにぎっくばらんな雰囲気 皆さんとよい意見交換ができればと思います。

【男性】 森林環境譲与税が今年度から市町村へ分配されることになり、低迷する林業にとって久々の明るい話題となりました。体系化する木材に対応した林業機械の導入を図っていますが、これを機に、林道の拡幅等や将来の森林資源の活用を見据えた林業施策、例えばバイオマスを近年始めていますが、こういうものを将来的にも続けられ、搬出もできるような補助事業ができればお願いしたいと思います。また、譲与税を活用して、林業が産業として成り立つように、森林行政に取り込む松山市の専門の職員の採用と育成をお願いしたいと思います。今までやっている中で、3年ごとに職員の交代があり、長い計画ができていません。いろんなことをやろうと思っても、また一から教えて

いくということになりますので、職員の対応をぜひともお願いしたいと思います。

【市長】 皆さんも森林環境税というのを聞いたことがあるかもしれません。新しい税金が導入されました。できるだけ分かりやすく話したいと思います。森林が整備されないといけないですから、森林整備などに必要な財源を安定的に確保するため、今年度の4月から森林環境税、森林環境譲与税というものが導入されました。同時に、新たな制度がスタートしまして、適切な管理ができていない人工林の整備や管理を市町が行う森林経営管理制度がスタートしました。今年度、森林環境譲与税3,476万円が松山市に譲与されます。松山市では適切な森林整備や管理、林業の振興を総合的に進めることを目的に森林環境整備基金を新しく作り、この譲与税を積み立てていきます。また、譲与税の一部を活用して、9月議会の補正予算で新たな森林経営管理制度推進事業というものを立ち上げました。手入れの行き届いてない人工林の整備を進めるために、市内の森林を持っている方に森林経営や管理について、まずアンケートを行って、その内容に応じた間伐などの森林管理を行っていきます。今年度、日浦地区では米野町の一部でアンケート調査を行う予定です。今後も順次事業を進めていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。職員のことですけれども、ずっと同じ場所に職員がいるのはメリットとデメリットがあります。在課有限といいまして、監督権限のある部署はずっと居続けることはできないような仕組みを設けています。でも、監督権限のない部署は、頻繁に職員が変わってしまうといけないので、市役所の中では、スペシャリストも大事で、いろんな仕事ができるゼネラリストも大事ということでやっています。

【産業経済部副部長】 林業専門分野の職員の件ですが、松山市では平成16年から林業に精通した職員を1人配置していて、県の林業関係のOBの方に来ていただいています。森林環境譲与税の関係で新たな森林管理制度が確立され、その中で現在、愛媛県・松山市・周辺の市町で、新たな組織を立ち上げて、そちらの方で専門職員が配置され、各市町に技術的な支援をいただける動きもあります。先ほどのアンケートにつきましては、年内には米野町にアンケートが届くようになると思います。林道の整備については、水ヶ峠線と大栗谷線の林道工事を継続して実施しています。林道水ヶ峠線は計画延長が約4キロで、前年度末で約3,400m完了していて、順次進めています。また、大栗谷線は、災害によって一部が崩れがあります。復旧予定箇所が14カ所で、前年度末は6カ所修理し、今年度は3カ所修理するようにしています。今後も、森林組合さんと連携しながら、要望等を聞きながら進めさせていただきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

【市長】 たまたま今日の昼に、林野庁の愛媛森林管理署長さんとお話をさせていただきました。国や県と連携しながら、また皆さん方とも連携をしながら進めていきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いします。

【男性】 少子高齢化は日浦だけの問題ではなく全国的な問題ですが、特にここは高齢

化率が非常に高い地域です。発展を目指そうと思うなら、やっぱり人口が増えるというか若い人が入ることが一番大事だと思っています。そういう意味では国道317号が大変充実していて、松山市内との距離が大変短くなり、私が車で走っても40分もあれば市役所に着くことができます。そこで、ぜひ若い方々、子育て世代の皆さん向けの市営住宅をここへ建ててもらいたいと思うんです。そして願わくば、半額にしてもらいたいと思います。それができると、地域の成果だけじゃなくて、日本の問題でもある子育て世代への支援という大きな政治課題が同時に解決をするのではないかと思います。また、小学生以下の子どもを持った方々に限って特別な住宅を建てるとなれば、今、市内からたくさん日浦に来てくれている生徒さんがいますが、ここで生活をしながら学校に通うと経済的にもいいんじゃないかと思いますし、地域も子育て世代の方に移住してくれたら、もっと発展していろんなことが全部うまくいき始めるのではないかという気もします。なので、若い人たちが移住してくれるような政策を行ってもらいたいと思っています。

【都市・交通計画課長】 松山市では、古くなった市営住宅の計画的な建て替えや、修繕などの整備を優先して進めています。新たな建設というのは難しい状況ですけれども、一方で、居住環境面での少子高齢化対策として松山市では我が家のリフォーム応援事業という取り組みを実施しています。子育て世帯の住宅改修費の補助、あるいは3世代同居、また多子世帯に対しては、そのリフォーム事業の補助額の加算などもあります。今日のご意見内容は、担当しています住宅課にお伝えいたします。

【市長】 私の方から補足をさせていただいたと思います。この間、興居島でタウンミーティングがありました。実は興居島でも市営住宅を作ってほしいというご意見をいただきました。市長の仕事をさせていただいて松山市の予算を見ていますけれども、松山市が経営破綻をした北海道の夕張市のようなことはありません。健全財政ではありますけれども、油断はできないという状況です。これから少子高齢化で私もいずれそうなりますが、高齢化してくると、どうしても体が不自由になったりして、お世話になる方が増えていきます。そして、それを支える子どもたちの数はどんどん少なくなっている状況です。家計と一緒に、入ってくるものが少なくなり、必要となるお金が膨らんでいくと、どこかでやりくりをしながらやっていけないといけません。私が、やりましようと言って、やってしまうと、子どもや孫の世代にツケを残してしまうことになります。全部、貯金を使い果たしてしまうことは許されませんので、何をすべきなのかをよく考えながらやっていけないと思っています。例えば、小・中学校の普通教室にエアコンの整備をさせていただきました。我々が子どもたちのときに比べると、今は35度、36度まで上がるようになってきました。夏は熱く、また冬は寒いですよね。そういう環境で子どもたちは一生懸命勉強しているわけですから、小・中学校の普通教室にエアコンを整備させていただきました。また、周辺の市町では、例えば中学校卒業まで通院も入院も医療費が無料だったりしますけれども、松山市はそうではなかった。来々1月からは松山市も中学卒業まで、つまり義務教育期間中は、入院・通院

を無料にします。そういった中で、これから昭和50年代ぐらいに作った建物が40年ぐらい経って、維持管理が必ず必要になってきます。ものを作ったら、後の世代が維持管理の面倒を見なければいけません。ですから、なかなかハード整備は、難しい状況になっているのが現状です。市営住宅を建てると、その地区への定住につながっていくと思いますが、その形がなかなか今は難しいかなと考えましたので、リフォームに補助をする形をとっています。多世帯で住んでいただくと、補助を上増しする形でもやっています。ご意見として伺いして、今後、何をするかでまた判断させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

【男性】 河中を中心に11の集落があり、田んぼは何年も荒れ放題となっています。私は松山市に買い取ってもらい、宅地にしてはどうかと思います。若い人が来てくれる環境づくりが一番大事だと思います。日浦には小・中学校があり、条件は良いと思います。住みよい町は、人がいないとできません。下流にダムがあり、建設的なことは無理でしょうか。サルやイノシシが、日浦の人口より多いです。農作物は全滅で、できません。日浦地区は、何年かすると廃業農家になります。許可してください。

【市長】 先ほどと同じ方向のお答えのようで申し訳ないですが、土地を買い取るのと市営住宅を建てるのは同様なことだと思います。土地を買い取ってというのはなかなか難しいと現時点では考えています。この間、北条の栗井地区の長井方（なんかた）集落では、松山市内で6頭目のモンキードッグを導入しました。犬猿の仲と言いまして、やっぱりサルには犬が効きます。この導入に松山市は支援していますけれども、モンキードッグが導入されると、犬ですから、他の人の畑を通ることもあるため、周囲の方にご理解をいただく必要があります。日浦でもご理解をいただければ、モンキードッグを導入していくことが可能です。有害鳥獣対策の予算もかなり増やして対処しています。農家の皆さんが一生懸命作って、最後の最後にイノシシに持って行かれたというのは私たちもつらいですから、できるだけ対策は取っていますので、そういった方向でご理解をいただければと思います。よい返事ができなくて申し訳ないですけども、よろしくお願いいたします。

【産業経済部副部長】 耕作放棄地を宅地にとということですが、耕作放棄地対策として、農地を借りたい人と貸したい人を結び付ける「農地中間管理事業」をしています。これは、固定資産税の写しを農林水産課に出していただくとようになります。平成26年度から行っていますけれども、現在210名の方に登録していただいて、マッチング数は114件となっていますので、そちらもご利用いただけたらと思います。このほか、経営安定対策推進事業ということで、稲から他の作物に転作した場合は、一反当たりいくらかの補助金を出す制度もありますので、農林水産課にご相談いただけたらと思います。

【男性】 区長連合会の会長として、お願いしたいと思います。近年、豪雨被害がたくさん出て、市に対策を取っていただいているところですが、特に農道とか、水路、水路の中でも川にせきがあるところが壊れた場合は、地元負担金が生じます。災害の場合でも1%付き、そうすると大きな災害で1,000万円、2,000万円になってくると、10万円とか20万円の地元負担金が生じます。そうすると耕作している土地と、耕作放棄地が混在している状況の中で、皆さんの合意をとって事業をしていただくのが非常に難しくなります。そういうのがあるので市の農業施策の地元負担金を取らないようにしていただけないかお願いしたらと思います。

【産業経済部副部長】 パーセンテージは変化していますが、現在は農振農用地の場合は1%、その他の農用地の場合は8%、市街化区域の農地の場合は20%の負担金をいただいています。一般の生活道路と比べて、やはり特定の目的ということで受益と負担ということが受け継がれてきています。日浦地区は農業振興地域ということで、一般の農道の場合は8%の負担が要りますけれども、農振農用地になれば1%という形で農道の整備もできます。この農振計画については、現在、令和3年度をめどに、農振計画の見直しをしています。農業振興地域では中山間の直接支払い制度という援助も受けられるような制度もあります。外部監査人さんからは、負担金をもっと上げろというような指摘もいただいている中、農業を守るために今のパーセンテージを抑えてくれとお願いしていますので、ご理解いただけたらと思います。

【市長】 私からお願い事があります。皆さんあまり悲観的にならないでください。皆さんご存知の通り、私は前の仕事がアナウンサーで、いろいろ各地を取材させていただきました。その中で、学校もなくなってしまって、地域の明かりが消えてしまったような所も見て来ています。松山市ではないですが、学校がなくなると地域がこんなになるんだなと感じたことがありました。この地区には、日浦小学校・中学校があります。前市長のときから、地区外からも児童・生徒さんを受け入れています。私は日浦地区の運動会に来させていただいて、当時の校長先生からお話を聞かせていただきました。「市長、ここの子どもたちは大きい学校だったら体験することができないことを体験しているんですよ。大きい学校だったら、リーダーの役割ってみんなができるわけじゃないんです。でも、ここの学校の子たちはリーダーの役目を果たして卒業していくんです。お米がどんなふうに行っているか。そういうことも地区の方々から教えてもらって知識を得て卒業していくんですよ」と話していました。日浦の運動会に来させていただいて、皆さんと一緒に子どもたちが頑張っている姿を見て素晴らしいなと思いました。日浦で教育を受けたいと選んで来ている人の存在もあります。川施餓鬼（かわせがき）に来させてもらって、立派な風習だなと思いました。ヒガンバナがどんな花か知らない子もいっぱいいます。でも、赤い彼岸花、白い彼岸花もあり、先輩たちが築いてくれた石垣をしっかりと見ている、そういった素晴らしい所が日浦にはあります。その魅力を感じて来ている人もいますので、あまりうつむかないようにしてください。うつむいてしま

うと、アスファルトや土しか見えなくなります。顔を上げると、青い空にも、鳥のさえずりにも気づきます。周りで囲ってくれている人も見えます。つつい辛くなってしまうと思いますけれども、中心部は中心部でまた大変なところがありますので、あんまりうつむかないでいただきたいと思います。今日、しんどいことや課題は遠慮なく教えてください。教えていただくことによって、またいろんな政策につなげていきたいと思います。

広報タイム「救急車到着までの応急手当について」

【男性】 防災士の立場から質問をさせていただきます。近年、災害が多く発生しています。災害が予想される場合の避難所開設がいち早くなされていることは非常にいいことだと感じています。ただ、日浦地区には、避難所まで2キロ3キロ余りも離れた集落が複数あります。移動手段を持たない災害時の支援を必要とする人が多く住まれている地域では、道路事情も不明な中で、自主防災組織が避難所まで人を運ぶことは困難です。避難所開設時には、消防団の車両を出動させ、地域の道路事情を確認するとともに、消防団員が避難所に搬送する体制をとっていただきますようお願いいたします。それから、避難所に避難者がいる場合は、消防団の一部の方の待機をさせていただきますよう、配慮をお願いしたいと思います。

【危機管理課長】 自主防災組織の皆さんには、災害時の避難所の運営などにご協力をいただきまして、ありがとうございます。松山市で災害が発生する恐れがある気象状況のときには、できるだけ早く避難所を開設するようにしています。先般の台風17号のときも夜に台風が最接近するという情報がありましたので、前日の昼の2時や3時の時間に避難所を開設させていただきました。とにかく、安全に避難できるうちに早く逃げていただきたいんです。皆さんもニュースで見られたと思いますけれども、台風19号ですごく大きな被害が東日本でありました。雨が強くなってからでは、逃げられないんです。亡くなられた方の4割ぐらいが、車の中で亡くなったと言われています。そういう気象状況になる前に、我々もできるだけ早く、全然まだ雨が降っていないから大丈夫じゃないのって言われても、自主的な避難所を開設するようにします。ですので、消防団の方の力が必要ということもあると思いますけれども、まずは近くの見守り員の方とか、ご近所で声を掛け合って、例えば遠くまで行けないという場合には、近くの集会所や分館にいったん集まって、その第一報を松山市の災害対策本部にいただきたいです。そこじゃ駄目ですよという話になるかもしれないし、そこにとりあえずいてくださいという話になるかもしれませんが、まずは近くに早く逃げてくださいようお願いいたします。

【市長】 私も意識と知識を上げて松山市の防災に力を尽くしたいという思いで、防災士の資格を取らせていただきました。先ほど危機管理課長が言いましたけれども、こんなに晴れているから大丈夫やろうと思われるかもしれませんが、我々は气象台と綿

密に情報交換をしながらやっています。市役所にも機械があって、線状降水帯がどんどん近づいてきて、何時間後には降るといのが分かるようになっていきます。避難準備、避難勧告、避難指示の3段階ありますけれども、できるだけ早め早めに出していきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。また、防災行政無線が聞こえにくいという方もいます。これが難しくて、防災行政無線のスピーカーが近い家はやかましいということになって、向きによって聞こえ方も違うんですね。全世帯に配っている広報まつやまの一面の下に、常に「災害時などの防災行政無線放送は電話で確認できます。松山・北条は986-7755。中島は997-1193」と掲載していますので、ぜひご利用いただいたらと思います。

【消防局総務課長】 消防団員さんの皆さんは、消防団長の命令によって活動を行います。消防車によるマイク広報など避難誘導を行い、早め早めの情報の発出によって、避難開始ができるかと思ひますので、地域の皆さんと消防団、消防署が力を合わせながら、1人でも多くの命を助けていきたいと思ひますので、ご協力とご理解をお願いします。

【女性】 この地区は高齢者が年々、増え続けています。地区の中心部まで来るのにも交通手段が大変で、高齢者にとっては参加しにくい、加入しにくいという状態ですので、増税していただいて、送迎などの支援ができれば活性化するんじゃないかなと思ひます。また、高齢クラブの活動のときに限定してバスとかタクシーとかを利用させていただいたらいいなと思ひています。

【保健福祉政策課長】 松山市では、高齢者クラブの会員数に応じて補助金を出していて、その補助金の増額ということなんですけれども、今の松山市の厳しい財政状況の中では、現状を維持するのが精一杯な状況です。今後もできる限り、高齢クラブの皆さんが活動しやすい環境整備に努めていきたいと考えていますので、ご理解をいただいたらと思います。

【市長】 地域の足のことで新たな施策に打ち込みますので、ご紹介をさせていただきます。山間部の方に来ると、高齢者の方の足を何とかしてほしいと言われます。実は、興居島では過疎地有償運送というのが始まりました。地区の方が運転手役をして、その人の車で運転ができる仕組みですけれども、新たに日浦にも入ってきます。現在、日浦地区では、伊予鉄バスが河中線という路線バスを、また瀬戸内運輸が松山今治間の特急バスを運行しています。松山市ではこの生活交通バス路線を維持する目的で赤字路線への補助を平成23年から河中線に行っていますが、あまり使われていない状況です。実際の平均乗車数は、今年4月から8月の5カ月の1日の平均乗車数で、米野々口で1日の平均乗車数0.03人、愛大演習林0人、大井町0.01人、九川口で0.06人、東川0.12人、日浦学校前0.01人、河中0.16人、藤野々0.14人というような状況です。通院や買い物への移動手段は必要だけれど、今の路線バスは使いにくいとか、地域の皆さんにはさまざまなニーズがあると思ひます。松山市では今年3月に新

しい計画を作りました。松山市地域公共交通網形成計画とあって、河中線を含む四つのバス路線でコミュニティ交通への転換を検討することとしていて、現在、交通事業者と協議を進めています。例えば、乗り合いタクシーなど、地域主体のコミュニティ交通へ転換できないかといった検討を進めたいと思っています。今後、受け皿となる交通事業者との意見調整を行いながら、今年度内をめどに担当課が皆さんの地域にお伺いをして意見交換を行っていきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

【男性】 地域の心配事の一つですので、お考えをお聞きしたいと思います。地域の過疎化や人口減少が進む中で、火災や災害時に活動できる人員確保が課題になってきています。地元の消防団員も日中の火災には仕事の関係で、すぐに出動できないこともあります。そうした緊急時に、消防団員経験者が消火活動等の支援に出動した場合、保険等の対象になるか、自衛隊のような予備役のような制度は作れないのか、団員が間に合わない場合、団員以外で消防機材の使用は可能か、お伺いをしたいと思います。消防団員経験者も日中は仕事に出ていて、いない現状です。

【市長】 平成28年から日浦地区は65歳の定年制の除外地域となり、65歳以上の方が消防団に再入団できることになりました。ご協力いただける方は湯山の分団長さんにご相談いただけたらと思います。災害の現場では、消防局による消防職員や、日頃は別の仕事をされている消防団員、団員のOBはもちろん、現場付近にいる一般の方にも消防活動の後方支援を求めたり、また、消防機材の使用が必要な場合は動かしていただく指示をしたりすることができます。定年制の除外は、興居島、中島、北条の安居島、堀江の東大栗、そして湯山の日浦地区限定、五明地区、立岩地区が定年制除外地域になっています。

【消防局総務課長】 現在、湯山地区には65歳以上の団員さんがいらっしゃらない現状ですので、ぜひ経験者、未経験者を問わずに、消防団員として協力いただける方がいらっしゃいましたら、分団長もしくは消防局総務課までご連絡をいただければと思います。

【市長】 65歳で定年されても元気な方がたくさんいらっしゃいますので、まだ活動できる方は力を貸していただきたいと思います。そういった方の存在が他の地域にもいい波及効果をもたらしていきますので、ご協力をいただければ幸いです。

【男性】 日浦公民館を利用しますが、施設の老朽化や手狭なところに不便を感じています。公民館は、地域のコミュニティの場や非常時の避難所、生涯教育施設としての日浦の中心的施設ですので、日浦公民館の建設をぜひともよろしくお願いします。

【生涯学習政策課長】 日浦公民館は昭和50年に日浦生活改善センターとして建設され、随時、必要な修理を行ってきていますが、経年による劣化が進んでいます。現在、松山市の公共施設再編成計画の中では、計画的な保全による長寿命化を推進する方針を

掲げていて、今年度中に市内全ての公民館施設の長寿命化をする整備計画を策定することになっています。その中で日浦公民館の建て替えは予定していませんけれども、計画的なバリアフリー化を含めた大規模な改修を行う予定です。今後も適切に維持管理をして地域の皆さんが利用しやすい施設にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【市長】 長寿命化で分かりやすい例が、松山市民会館です。松山市民会館は国の史跡の上に建っているのです、大きく建て替えるということができません。トイレをきれいにして、バリアフリーとか、クロスを替えることをすると、新築のように見えますが、そういった形で、長寿命化をしているところです。皆さんご存知のように、日浦の公民館のトイレを改修させていただきます。いい悪いではなくて昔はそうだったんだろうと思いますけれど、昔の学校や公共施設のトイレは、男女が一緒のつくりなんですよね。昔はそれで大丈夫だったかもしれないですが、今なかなか男の人と女の人と一緒にトイレはしにくいですよ。日浦公民館の1階と2階のトイレの男女別化、洋式化の工事に12月に入らせていただいて、3月には完成する予定です。日浦公民館のトイレが利用しやすくなりますので、お知らせをさせていただきます。

【女性】 P T A保護者からのお願いですけれども、日浦小・中学校の児童・生徒合わせて65人中61人がスクールバスで校区外から通学しています。現在、スクールバスが2台ですが、通学バスの更新がありましたら、小型化して3台体制での運行をお願いできたらと思っています。利便性が向上して、幅広い地域からの通学希望者を集めることができるのと、通学に限らず、部活動や学校行事などにも使用できるように、弾力的な運用が可能になるように市から配慮をお願いできたらいいなとP T A保護者たちからのお願いです。

【生涯学習政策課】 スクールバスの運行を弾力的にということですが、日浦小・中学校には市内全域から児童・生徒の方が通われているので、その通学の支援としてバスを運行しています。スクールバスの運行は、行事計画に配慮して運行計画を定めて、民間の事業者と委託契約を結んでいます。そのため、就学外の活動である部活動などに合わせた運行は難しいですけれども、夏休み中の部活動などは、学習の相談などに合わせて部活動をするようにして、スクールバスの利用をされていると聞いています。また、スクールバスの弾力的な運用として、遠足や音楽会などの送迎などで利用しています。今後も、夏休み中の学習相談日と部活動の日程調整をうまく行っていただきながら、多くの活動に子どもが参加できるように検討したいと考えています。また、バスの台数を増やすことについてですが、費用がかかることですので、今後、検討させていただけたらと思います。

【市長】 今、松山市内の小・中学校でスクールバスで通っている所は、どこがありますか。

【生涯学習政策課】 現在、スクールバス通学は立岩小学校、五明小学校、日浦小学校、興居島小学校があります。

【市長】 検討させてください。確か私の記憶では、スクールバスは補助や寄付を受けて購入した関係で、あくまでもスクールバスとして使わなければいけないみたいな、決まりがあったと思うんです。例えば、せっかくスクールバスで地区に来ているから、これを高齢の方の移動に使えないのかと思うんですけど、それがなかなかできてないのは理由があるんです。今、はっきり答えられなくて申し訳ないですけども、日浦地区には核となる小学校・中学校があるわけですから、地域振興という観点から、そういうバスを導入することができないのかを考えさせていただきたいと思います。理想的には増やして、弾力的な運用ができるとか、すごく分かります。検討させていただきたいと思います。

【女性】 バスにも寿命があって、次バスが壊れたときに、そのまま買い替えるのではなく、便が増やせるような話し合いができればいいと思いますのでよろしくお願ひします。

【市長】 バスは、だいぶ古いですか。

【生涯学習政策課】 大きいひめゆり1号の方が30年近く経過していますが、年に定期点検を3回行っており、故障が起こる前に部品等も交換して安全に配慮していますのでご理解いただいたらと思います。

【市長】 今、松山市政の姿勢として、上から目線ではやらない、一方的にやらない、押しつけてやらないということを職員に徹底していますので、もし、バスを変えるような場合は、必ず皆さん方とご相談をさせていただいて、どういうバスがご希望ですかというのでも聞かせていただいたらと思います。

広報タイム「家具転倒防止対策の必要性について」

【男性】 防災行政無線のことです。この地域では、地域ごとに防災無線のアンテナが立ってない状況で、地域からの情報発信が災害対策本部などに確実に届くような機器の研究と設置拡大をお願いしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

【危機管理課長】 防災行政無線は、全ての地区への設置は確かにされていません。例えば、福見川町や川の郷町、青波町などの地域には、防災無線のスピーカーはありませんが、移動式の防災行政無線があります。大雨が降って、万が一孤立することも考えられますので、移動式の防災行政無線を整備して、1年に1回しっかり点検をしています。防災行政無線はいざという時に、災害対策本部と直接通話ができるものですので、使い方も機会がありましたらお伺いして、お伝えさせていただきたいと思います。補足ですが、防災行政無線は、やはり雨や風が強く、家の雨戸を閉めたりするような状況であると、なかなか聞こえないことがありますので、まず、テレビを見てください。災害対策

本部が避難勧告とか避難指示を出すときには、その情報をエルアラートっていうシステムで、全ての放送局に同時に送ります。防災行政無線より、もしかしたら早いかもしれません。見られたことがあると思いますけれども、テレビにL字でテロップが出て、松山市〇〇町に避難勧告を発令とか、情報が出ます。さらに、テレビのdボタンを押していただいたら、詳しい情報がデータ放送で確認できます。それ以外にも、皆さんの携帯電話に私どもの方から強制的に情報を送れるようなシステムもあり、携帯電話を購入されたときにはそういう設定になっていると思いますので、再度確認しておいていただいたらと思います。

【市長】 予定の20時半になりました。今日、本当に多くの方が手を挙げていただいて、皆さんが地区のことを大事に考えてくださっているのがよく分かりました。時間がなかった方には申し訳ありません。私から今日のまとめをさせていただきます。やっぱり日浦小学校・日浦中学校は大事だと思っていますので、松山市は毎年、愛媛県に要望を続けていて、今年度は日浦小学校に1名、日浦中学校に1名の加配教員を配置できています。実は、先生は、県費負担教職員といって、都道府県が広く市町村を越えて人事を行うことで、教職員の適正な配置と人事交流を図っています。分かりやすく言うと、〇〇市で採用するとなると、財政的に豊かでない市町は先生の数が少なく、豊かな市町は先生の数が多くなるといけませんので、都道府県がやっています。ですから、加配教員は、愛媛県教育委員会が予算の範囲で、自治体の要望を受け、各学校の実態に応じて配置をしていますので、今後も引き続き愛媛県に加配教員の要望を続けていきたいと思っています。これが松山市の姿勢で、日浦は大事なんだという思いでこれからも臨んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。今日時間がなくて言えなかったという方もいらっしゃるかと思います。ちょっと説明が長かったかもしれません。わがまちメールの制度もありますので、遠慮なく伝えてもらえたらと思います。市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなきゃいけないと思っていますので、今後とも遠慮なく、言っていただいたらと思います。本日は、ありがとうございました。

—了—